



Save the Children
JAPAN



arts
NPO法人プラス・アーツ

ひなんじょ ころが
[避難所で心掛けること]

きょうりょく あ
みんなで協力し合う

- ▶ こえ か あ
声を掛け合う
- ▶ じぶん
自分ができるところをする



Save the Children
JAPAN



+arts
NPO法人プラス・アーツ

みんなで協力し合う

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ① みなとくんがいる避難所では、子どもも大人も助け合って食事を配ったり、そうじをしたりしています。
- ② ある日、みなとくんがそうじをしていると、テレビ局の人が取材に来て、「お話を聞かせてもらえますか?」と話しかけてきました。
- ③ そして、みなとくんに聞きました。「この避難所での暮らしは、どうですか?」
- ④ みなとくんは答えました。「〇〇〇〇〇」

▶ セリフの例 (気持ち)

- 「楽しいです」
- 「みんな仲良しで楽しいです」
- 「みんなで助け合っているので良いと思います」

▶ 発問例

- ・この避難所の様子を見て、どう思いますか?
- ・避難所の人たちが笑顔なのは、どうしてですか?
- ・この避難所のようにするためには、どうすればいいですか?

■ 教訓シートの説明



- ・小中学校や公民館など避難所になる場所は、大きさや設備などが異なります。
- ・集まる人たちも避難所によって、子どもが多い、大人が多い、高齢者が多いなど、さまざまです。
- ・お互いによく知っている人ばかりの避難所や、ほとんどが知らない人同士の避難所もあります。
- ・どのような状況でも、災害後の困難な時をみんなで力を合わせて、全員が生き延びなくてはなりません。

▶ 声を掛け合う

- ・知っている人も知らない人にも、あいさつをしましょう。
- ・困っている人がいたら、声をかけましょう。
- ・助けてもらったら、お礼を言いましょう。

▶ 自分ができることをする

- ・避難所では、物資の仕分けや配布、炊き出し、そうじなど多くの作業があります。子ども、大人、高齢者、それぞれができることがあります。
- ・自分ができることは進んで行き、みんなが気持ちよく過ごせるように協力しましょう。

■ 東日本大震災の教訓

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、「震災後に中高生が果たした役割」について調査をしました。「水を運んだ」「掃除やゴミの回収をした」「避難者名簿をつくった」「小さい子どもの面倒をみた」「お年寄りと話をした」など、子どもたちが主体的に行動していたことがわかりました。